

# フィリピン

## <2005年の注目すべきポイント>

2005年は、政府による鉱業再活性化・投資奨励策を受け、外国鉱業投資が促進した。Coral Bay NickelのHPAL工場の商業生産が開始されるとともに、Lafayette Mining LtdによるRapu Rapu多金属鉱山から銅精鉱が出荷されるなど大型案件が結実した。Didipio(Dinkidi)、Tampakanの両プロジェクトは開発に向けた最終段階を迎えている。

### 1. 非鉄金属一般概況

2004年12月現在、操業中の鉱山と採掘場の総数は、2,311である。そのうち、主要な金属鉱山は次のとおりである。

大規模な金鉱山は2カ所：Victoria/Teresa (Lepanto Consolidated Mining Corp)；

大規模な銅鉱山は1カ所：Padcal (Philex Mining Corp)；

中規模のニッケル鉱山は4カ所：Palawan (Rio Tuba Mining Corp), Cagdianao (Cagdianao Mining Corp), South Dinagat (Hinatuan Mining Corp), Taganito (Taganito Mining Corp)；

中規模のクロム鉱山は4カ所：Masinloc (Benguet Corp), Omasdang (Crau Minerals), Homonhon (Heritage Resources Mining Corp), Dinagat (Kromin co.)；

中規模の金鉱山は4カ所：Canatuan (TVI Resources Philippines, Inc), Acupan (SSM operations and Benguet Corp), Diwalwal (NRMDC, 国家直営プロジェクト), Banahaw (Philsaga Mining Corp)となっている。

PASAR(Philippine Associated Smelting and Refining)社はフィリピン唯一の銅の製錬所である。現在、その株式の大半は、スイスを拠点とする商品取引商社Glencoreが保有している。

1980年代、金属鉱山数は58ヶ所を数え、鉱業製品の輸出はフィリピンの輸出全体の20%を超えたがその数は減少し、近年、鉱業生産は低迷した。

こうした中、2004年1月Macapagal-Arroyo大統領は鉱業政策を「寛容(Tolerance)」から「奨励(Promotion)」に転換する大統領命令270号を発行した。大統領命令は、鉱業を再活性化(Revitalization)し持続可能な開発を促進することで産業基盤を強化し経済を発展させて、貧困から脱却し生活水準を向上させることを鉱業

に期待している。

2004年12月、フィリピン最高裁判所は、先の鉱業法と財政技術支援協定(FTAA: Financial and Technical Assistant Agreement)が憲法で規定する資源開発に対する外資制限に抵触し違憲であるとする判決を撤回し、最終的に合憲判決を決定した。

これにより、フィリピン政府による鉱業振興策に加え、法的不安が解消され投資環境の好転を受けて外国投資家による鉱業投資が増大しつつある。

2005年の鉱業は、(原油を除くと)ニッケルが最大の貢献をし、成長の勢いを持続させた。世界市場における主要鉱物価格の急騰に加え、当該地域内外からの需要が伸び、金、銅、およびクロム鉱石が価格面で力強い成長を見せた。

2005年第2四半期の採鉱・採石事業は、2004年同期に比べ、原油、金、およびニッケルなどの生産が実績を上げ、GDPに対する付加価値を13.9%成長させた。小規模な金採掘の貢献度も、前年と比べ上昇を記録した。

2005年の最初の5ヶ月間で、フィリピン株式市場の取引高は、2004年の749億ペソから1,965億ペソに162%急増した。株式市場の流動性は、GDPの成長、個人消費の伸び、輸出の増加、重要な財政措置の実施などの楽観的マクロ経済指標に起因する。鉱業は、2005年1~5月の間に売上高が最高の伸びを記録し、2004年同期のわずか1億ペソから120億ペソへと8,340.3%の急増を見せている。

2005年末、鉱業は、貿易全体の53.6%を占め、2位の原油部門を抑え、最も業績の良い産業としての地位を維持した。外国投資家の占める割合が市場取引高の50%を上回った。

2005年11月、フィリピンは、2004~2005年、鉱業投資家にとって最も投資環境が改善した国として、マイニング・ジャーナル誌から国家賞

(Mining Journal Country Award)が授与された。

## 2. 鉱業政策の主な動き

フィリピン政府は、2003年以降、鉱業の再活性化・持続的な鉱業の発展のため、国家鉱業政策(National Mineral Policy)の策定や、2004年1月には、政策として鉱業を振興(ToleranceからPromotionへ)する旨の閣議決定、鉱業再活性化政策アジェンダの大統領令270号発布(1月16日)、行動計画(Mineral Action Plan)の策定、鉱業開発会議(Minerals Development Council)の創設、政府窓口職員(Accounting Officer)の配置など取り組みを進めており、外国鉱業投資企業に対し支援体制を強化している。

特に、鉱業開発会議は大統領直属の機関で、外国企業による鉱山開発を促進するため、政府施策を許認可申請機関に周知徹底させ、審査手続きを迅速化し、透明性を確保して鉱業投資に係る問題を集中審議するほか、利害関係者がホットラインで召集される政府内システムを構築している。鉱業開発会議には、環境天然資源省、貿易産業省、内務自治省、国家先住民族委員会、フィリピン情報局、国家貧困対策委員会、大統領府運営委員会のほか、地方政府関係者、鉱物開発を促進する金融機関や国際機関も招聘される。また、外国投資家のために政府の交渉の窓口となる職員を選任し窓口の一本化、専従化を図っている。

2006年1月末時点のFTAAの発行件数は2件、MPSの許可件数は228件、同審査案件は19件、探鉱許可案件は28件、暫定探鉱許可は1件となっている。

## 3. 主要鉱山物の生産・輸入・消費・輸出動向

### (1) 銅

Philex Mining社Padcal鉱山に新たにLafayette Mining LtdのRapu-Rapu多金属プロジェクト鉱山が加わり2鉱山となる。今後開発が期待される有望案件としては、Didipio(Dinkidi)銅金、King King銅金、Tampakan銅金、Far Southeast、Toledo銅、Boyungan銅プロジェクト等が挙げられている。

Rapu-Rapu多金属プロジェクトは、銅1万t/年、亜鉛1.4万t/年、金5万oz/年、銀60万oz/年を生産する計画である。Didipio(Dinkidi)銅金プロジェクトは、FSの最終段階となっており、銅1万3,000t/年、金11万oz/年を生産する計画である。Tampakan銅金プロジェクトは、東南アジアで最大級の鉱床とみられ、2009年の生産開始が見込まれている。1994年に操業を停止したToledo鉱山については、Toledo Mining Corp.が再開に向けた事業化調査の実施等の取り組みを進めている。

### (2) 金

Lepanto Consolidated Mining Corp.のVictoria/Teresa金鉱山、TVI Resource Development PhilippinesのCanatuan鉱山及びBenguet Corp.のAcupan鉱山から生産される。

### (3) ニッケル

ニッケル鉱生産量はRio Tuba、Taganito、Cagdianao及びHinatuan鉱山から生産されている。

生産量・生産額は以下のとおりとなっている。

主要鉱物生産量

年	2002	2003	2004	2005
銅精鉱 (dmt)	79,213	80,917	70,578	75,283
金 (kg)	35,848	37,844	35,464	37,488
銀 (kg)	8,811	9,533	9,315	19,146
ニッケル精鉱 (dmt)	—	—	—	7,206
ニッケル鉱 (dmt)	1,200,204	962,484	874,193	1,106,903

主要鉱物生産額 (百万ペソ)

年	2002	2003	2004	2005
銅精鉱	1,493	1,950	2,205	3,288
金	18,009	23,846	25,595	28,303
銀	68	82	112	246
ニッケル精鉱	—	—	—	2,196
ニッケル鉱	1,318	1,361	1,431	3,240
全金属鉱物	20,940	27,366	29,490	37,364

Source : Mines and Geosciences Bureau

#### 4. 鉱山会社活動状況

##### Lepant Consolidated Mining Corp.

同社は労働組合（組合員 1,700 人）の 100 日間の労働ストライキのため、選鉱場の給鉱処理量が前年の 78 万 4,720t から 47 万 1,710t に激減したため、2005 年の売上高は前年比 38% 減の 13 億 9,900 万ペソ。純利益は 4 億 1,000 万ペソの赤字となった。

Victoria/Teresa 金鉱山の生産量は、金が前年比 24% 減の 55,749oz、銀が前年比 55% 減の 7 万 3,482oz となった。

##### Philex Mining Corp.

2005 年の売上高は金属価格上昇と生産増強で前年比 44% 増の 45 億 3,930 万ペソとなった。純利益は 4 億 910 万ペソで前年の 1,580 万ペソの赤字から脱却した。同社は 2006 年 1 月 1 日、Padcal 鉱山の 782m 坑準の開発を完了し商業生産を開始している。2006 年の金生産量は、同坑準からの鉱石品位の上昇により増加すると見られている。2004 年の生産量は銅 1 万 5,985t、金 2,279kg、銀 2,500kg であった。同社は、そのほか Bulawan 金鉱山（100% 権益保有、休止中）、Boyongan 金銅プロジェクト（50% 権益保有）を保有する。

##### Crew Minerals AS

Mindoro 島でニッケルの大規模低品位鉱床（埋蔵鉱量 1 億 8,000 万 t、ニッケル品位 0.94%、コバルト 0.06%（ニッケルカットオフ品位 0.7%））の開発を手掛けている。開発計画によれば、第 1 次段階はリモナイト鉱を対象に高圧硫酸浸出（HPAL: High Pressure Acid Leaching）法を用い年間ニッケル約 2 万 t を生産する精錬施設を建設し、第 2 段階はサポロラ

イト鉱を対象に常温浸出（ATML: Atmospheric leach）法を用い、年産 35,000t を生産するプラントを建設し、HPAL 用オートクレイブ 2 基を増設し年産 6 万 t にまで拡張する予定である。投資総額はフル操業開始までに 13~14 億 US\$、投資企業：Aglubang Mining 社、Crew Minerals 社、2009 年から商業生産を開始する予定。

##### Apex Mining Co INC

Crew Gold Corp. は、2005 年 7 月、Apex Mining Co. の株式を 660 万ドルで 72% 取得し、Apex Mining Co. が、フィリピン産金地帯の一つ Compostela 溪谷で運営する Masara Gold 鉱山の権益を取得した。Crew Gold Corp はこの買収により Masara Gold 鉱山の拡張を 2006 年に実施する予定。Crew Gold Corp は、12 月、Apex Mining Company Inc の残り株式を取得した。同鉱山における金量を 200 万 oz と見込む。現在、埋蔵鉱量は 8,500 万 t、銅品位 0.4%、金 0.4% が見積もられている。

##### Benquet Corporation

1906 年にフィリピンで最初の金鉱山を操業し、120 年に及ぶ歴史を有する。現在、Ampucao 斑岩銅金鉱床、Kingking 銅金鉱床、Kingking 熱水性金鉱床、Santa Cruz ニッケル鉱床、Pantingan 熱水性金鉱床の開発を手掛けている。

King King 銅金鉱床は、可採埋蔵鉱量が 3 億 5,300t、銅品位 0.38%、金 0.44g/t で 14 年間の鉱山ライフがあると推定されている。銅量で 116 万 t、金量で 359 万 oz が生産可能であると見ている。

### Climax Mining Ltd

同社は Didipio 地域における資金技術支援協定 (FTAA) に基づき、2006 年下期の建設開始に向け Luzon 島北部の Dinkidi 斑岩銅金鉱床 (資源量は 1 億 2,100 万 t、金品位 1g/t、銅品位 0.4%、鉱石埋蔵量は 2,370 万 t、金品位 1.8g/t、銅品位 0.65%) の開発を進めている。建設費は 800 万 US\$ である。FS 調査によれば、4 年間の露天掘りと 11 年間の坑内掘りとで構成される。粗鉱量 200 万 t/年で、生産量は金 11 万 oz/年、銅 1 万 3,000t/年を予定。金の生産コストは 200US\$/oz と見積もられている。2007 年の生産開始を目視している。フィリピン投資委員会は、同鉱山から出荷される金・銅の輸出を担当する Australasian Philippines 社の認可を完了した。

### Indophil Resources NL

Tampakan は、General Santos 標高 1,300m に位置する。埋蔵量は 13 億 4,000 万 t、銅品位 0.66% (カットオフ品位 0.3%)、金品位 0.27g/t 金と推定されている。ボーリング調査の結果、257m 区間で銅品位 1.54%、65m 区間で金 0.53 g/t が捕捉されている。鉱山の開発計画によれば、銅の生産量は 10~30 万 t/年、金は 10~25 万 oz/年規模を予定している。投資額は、年産 20~25 万 t/年規模で 10 億 US\$ が想定されている。プレ FS 調査は 2,100 万 US\$ を超える見込みで 2006 年の 9 月までに完了させる予定である。2009 年の生産開始が見込まれる。

Xstrata は 2006 年 9 月まで 5,200 万 A\$ を支出することによって、同プロジェクトから得られる利益の 62.5% を獲得できるオプション権を有する。Tampakan は現在、世界的な大規模開発案件で Oyu Tolgoi、Resoulution、Pebble Copper、Aktogai、Cerro Colorado につぎ 6 位にあるといわれる。

### Lafayette Mining Ltd

Albay 州 Rapu Rapu 島における銅、金、銀、亜鉛の開発プロジェクトであり、過去 2 カ年の投資額は 5,000 万 US\$ で Rapu Rapu Minerals, Inc. が操業を行う。同プロジェクトは、銅 1 万 t/年、亜鉛 1.4 万 t/年、金 5 万 oz/年、銀 60 万 oz/年を生産する計画である。2005 年 7 月に

金、銀を初採取した。

2005 年 11 月 10 日、Rapu Rapu 鉱山からシアン排水が河川に流出し河川を汚染した。政府は、同社に同鉱山の操業停止命令を出し、同社は排水事故の調査の間、同鉱山の操業を停止する事を明らかにした。同社は事故対策として、スライム堆積場の嵩上げ、汚染状況の確認、被害者への補償を行う予定である。なお、Rapu Rapu 鉱山については、韓国商社 LG International が関心を示しており、豪州 Lafayette Philippines の出資比率を現行の 25% から引き上げる計画を明らかにしている。

### Mindoro Resources Ltd

同社はこれまで 9 年間に 5 万 ha にわたる探鉱を行い、21 ヶ所の斑岩銅鉱床、5 ヶ所の浅熱水性鉱床を発見している。現在、Lobo、Archangel、Agata で浅熱水性金鉱床を、Tapihan San Francisco でニッケルラテライト鉱床の開発を手掛けている。Lobo 地区では Pica 探鉱区のボーリング調査で 213m 区間、銅品位 0.18%、金 0.3g/t、銀 1.19g/t の鉱化帯を捕捉。2006 年 2 月から Archangel 地区における Kay Tanda 探鉱区においてボーリング調査を開始した。

### Toledo Mining Corporation Plc

Toledo 市の旧 Atlas 鉱山の再開を目指すプロジェクトである。Atlas 鉱山は、以前は Atlas Consolidated Mining Development Corporation が所有していたが、最近になって Toledo Copper Mining Plc がこれを取得した。同社は鉱山再開のために 1 億 US\$ の投資を予定している。この鉱山では銅精鉱の販売により年間 1 億 3,000 万 US\$ の収入を得る見通しで、商業生産に移行できれば約 2,600 人の労働者を雇用できるとされる。

また、同社は Atlas Consolidated Mining and Development Corporation と Palawan 西部 2 地域でニッケル探鉱を行っているほか、Brooks Nickel Ventures Inc 及び Celestial Nickel Mining Exploration Corporation とニッケルラテライトプロジェクトを実施中である。これら探鉱区にある Berong 鉱床の埋蔵量は 1 億 4,000 万 t、ニッケル 1.41%、コバルト

0.07%、同社は権益 56.1%となっている。Celestial 鉱床は埋蔵鉱量 7,700 万 t、ニッケル 1.25%、コバルト 0.10%で同権益は 52%となっている。Ulugang 鉱床は埋蔵鉱量 2,500 万 t、ニッケル 1.25%、同権益は 52%。Long Pt 鉱床は埋蔵鉱量 1 億 2,000 万 t、ニッケル 1.25%、権益は 56.1%となっている。

#### Surigao Integrated Resources 社

フィリピン南部、東ミンダナオで Adlay-Cagdianao-Tandawa プロジェクトを実施している。投資総額は 1,900 万 US\$、鉱山の完成は 2005 年 11 月、2007 年からフル操業を開始する予定で、年産 100 万 wmt のニッケル鉱石を生産する計画である。埋蔵鉱量は 890 万 t、ニッケル品位 1.53%、コバルト品位 0.14%で、鉱山ライフは 13 年とされている。

#### Philnico Mining and Industrial 社

同社は、2005 年 4 月、中国最大手鉄鋼ミル上海宝钢集団公司、Jinchuan Nonferrus (金川有色金属公司) グループと総額 9 億 5,000 万 US\$をかけて Nonoc ニッケル精錬所の生産再開を行うことで合意した。同精錬所の再建は 2007 年 4 月からの予定で、2008 年 10 月から生産を開始する計画である。生産計画によればニッケル 4 万 1,000t、コバルト 4,100t を含む硫化鉱を年産 8 万 6,500t 生産する。埋蔵鉱量は 5,360 万 t、ニッケル品位 1.15%、コバルト品位 0.13%としている。生産期間は現在調査中である。

#### Hallmark Mining 社/Austral-Asia Link 社

両社はミンダナオ島南東部で Hallmark プロジェクトを実施している。投資総額は 10 億 US\$と見積もられる。ボーリング調査などの探鉱を実施中で、埋蔵鉱量は 2 億 t、ニッケル 1.3%と推定されている。

#### Rusina Mining 社

マニラから北西 150km の Zambales 県 Acoje でニッケル・プラチナプロジェクトを実施している。Acoje は、プラチナ鉱床として有名な南アフリカ Bushveld、米国 Stillwater、シベリア Norisk などの鉱床と異なる構造的長を示

す。Acoje の鉱脈幅は 2.5m で Bushveld の 0.8m に比べ厚く、PGM 品位は 9.87gt/ (3E: プラチナ・パラジウム・金) と Bushveld の 4.14g/t-4.92g/t (4E) に比べ高く、ニッケル (品位 0.67%) を伴っている。中央部における埋蔵鉱量は 120 万 t、3E 品位 1.53g/t (カットオフ 0.50g/t)、ニッケル 0.34%となっている。1993 年まで約 60 年間にわたりクロム鉱石を生産した鉱山に隣接する地域である。

同地域では 1970 年から 1975 年にかけて 54 万 3,000t のニッケル硫化物が生産された。同社は 2004 年 4 月から 2005 年 10 月までボーリング調査延べ 34,000m を掘削した。鉱脈の走向長は 12km ある。同社は 2005 年マニラの Paramina Earth Technologies と契約し、深部鉱床の鉱量を特定するための坑内ボーリング座設置のために旧鉱山の坑口、坑道 413m の修復・補強工事を行った。

#### Coral Bay Nickel 社

同社 (CBNC: 住友金属鉱山株 (SMM) 54%、三井物産株 18%、双日株 18%、Rio Tuba Nickel Mining Corporation 10%) は、Palawan 州 Bataraza 郡 Rio Tuba で HPAL (High Pressure Acid Leach: 高圧硫酸浸出) 工場を保有。CBNC はニッケル量で約 1 万 t/年、コバルト量で約 700t/年のニッケル・コバルト混合硫化物 (Nickel/Cobalt Mixed Sulfide: ニッケル品位約 55%) を生産し、全量を SMM のニッケル工場 (愛媛県新居浜市) へ出荷している。

#### Natural Resources Development and Mining Corporation (NRMDC)

2005 年 7 月、政府が 100%株式を所有する天然資源開発鉱山公社は鉱山関係者に対し同公社が管理する鉱区の一般入札の公告を行っている。対象鉱区は、Davao 地域の旧 North Davao Mining Corp. の鉱区、Dinagat 島のニッケル・クロム鉱床、Benguet 州 Batong-Buhay 鉱山金銅鉱床であった。

### 5. 鉱山・製錬所状況

#### Padcal 鉱山

Luzon 島北部、バギオ市 (マニラ北方約 200km) の南東約 20km、標高 1,400m 斑岩 金銅

鉱床坑内掘り鉱山である。1958年 露天掘り採鉱開始 1963年坑内掘りに移行している。

同鉱山は、極東で初のブロックケービングによる坑内採掘鉱山で、近年の生産規模は年間 7～8 万 t となっている。現在、下部鉱体 (782m レベル) の開発を実施中で、2006 年 1 月 1 日から商業生産に移行している。2011 年まで生産を継続する予定である。総投資額は 13 億 4,000 万ペソを計上、投資委員会 (BOI) による非パイオニア事業の承認を取得、4 年間の法人税免税等の優遇措置の適用を受けている。

### PASAR 製錬所

スイス大手商社 Glencore が権益 73%を保有する。同製錬所の生産能力は 17 万 2,500t であるが、2005 年の生産高は前年比 2.3%減の 17 万 2,035t となった。同精錬所は、銅精鉱の 9 割をインドネシア、豪州、チリから国外調達している。製品の 9 割は中国、韓国、東南アジア諸国に輸出している。2005 年 5 月 31 日、Glencore は 5,230 万 US\$を投資し 2006 年までに Pasar 銅製錬所の生産能力を現在の年間銅量 17 万 2,500t から 21 万 5,000t と約 25%増強すると発表している。

### HPAL 工場 (製錬所)

Palawan 州 Bataraza 郡 Rio Tuba に位置する。HPAL 工場は 2004 年 8 月のプラント完成から試験操業を経て、2005 年 4 月 13 日に商業生産に移行。同日、Arroyo 大統領も出席し HPAL 工場の落成式が行われた。

日本への初出荷は 2005 年 3 月。第 1 期の投資総額は 1 億 8,000 万 US\$。原料は、Rio Tuba Nickel Mining Corporation (RTN 社) が Rio Tuba 鉱山で採掘したニッケル酸化鉱のうち、当時、利用ができず約 20 年貯蔵してきた約 1,600 万 t の低品位ラテライト鉱 (Laterite) が使用されている。20 年の操業が見込まれている。HPAL 工場での硫酸使用量は約 26 万 t/年である。ニッケル・コバルト混合硫化物は、日本で、MCLE (Matte Chlorine Leach Electrowinning) プロセスの原料として処理され、電気ニッケルおよび電気コバルトに製品化されている。

2006 年 3 月 28 日、SMM 社は、既存の HPAL 工

場に併設し、新たに同規模の第 2 工場を建設する計画を発表している。投資額は 2 億 8,500 万 US\$、2009 年 4 月の生産開始を目標としている。

## 6. 我が国との関係

PASAR 製錬所は、1966 年、政府の経済 5 カ年計画 (1967～1970) を受け、1983 年に Leyte 島 Isabel の南方に建設された。同経済 5 カ年計画では、それまで全量を輸出していた銅鉱石に付加価値をつけ外貨を獲得する政策の一貫として行われた。当時の出資比率は、政府 41.91%、フィリピン国内鉱山企業 21.79%、International Finance Corp 5.0%、日本の商社連合 (丸紅、住友、伊藤忠) 31.22%となっていたが、1999 年に、銅価の低迷を受け日本企業が撤退し、現在、Glencore がそのマジョリティーを有している

パンパシフィック・銅業(株) (日鉱金属株 66%、三井金属鉱業株 34%) は、2004 年 1 月 14 日、Philex Mining 社との間で、同社が現在稼働中のパドカル鉱山にて計画している鉱体下部開発 (2005 年末生産開始・2011 年終掘予定) に対する開発資金融資、並びに同社が生産する高品位銅精鉱の長期買鉱について基本合意し覚書を締結している。覚書の内容は、PPC は、フレックス社に対し、鉱体下部開発資金として 1 千 5 百万 US\$を融資する。PPC は、長期買鉱契約に基づき、鉱山終掘までの間、年 50～70 千 t の高品位銅精鉱をフレックス社から買鉱する。

## 7. 国際会議等の実績

環境天然資源省、鉱山地球科学局、フィリピン鉱業協会などが外国鉱業投資家に対し行った一連の鉱業投資使節団活動 (鉱業ロードショー) は次のとおりである。

2006 年 3 月 6～10 日	カナダ探鉱開発協会	カナダ・トロント
2006 年 2 月 7～9 日	インダバ鉱業大会	南アフリカ・ケープタウン
2005 年 10 月 3～4 日	アジア太平洋鉱業大会	フィリピン・マニラ
2005 年 6 月 15～17 日	鉱業ロードショー	豪州・メルボルン

2005年8月4日  
アセアン鉱物閣僚会議 マレーシア・クチン

2005年6月15～17日  
鉱業ロードショー フランス・パリ

2005年6月8日  
JOGMEC フォーラム 日本・川崎

2005年6月5日  
鉱業ロードショー 韓国・ソウル

2005年3月22～24日  
アジア鉱業大会 シンガポール

2005年3月6～9日  
カナダ探鉱開発協会 カナダ・トロント

2005年2月8～10日  
インダバ鉱業大会 南アフリカ・ケープタウン

2005年2月3日  
フィリピン鉱業大会 マニラ、フィリピン

2005年1月17～19日  
フィリピン鉱業投資フォーラム 中国・北京

## 8. その他トピックス

PapuRapu 金銅プロジェクトでのシアン流出などを契機にフィリピン・カトリック司教会議、環境 NGO などによる鉱業法の見直しを訴える活動が先鋭化、活発化する兆しがあり、注意が必要である。

(2006. 6. 1/ジャカルタ事務所 池田 肇)